

共創科学における「当事者」は誰が担い、いかにつなぐか： 障害者支援の現場から

本間 美穂
Miho Homma

株式会社LITALICO
LITALICO Corporation

障害者の就労支援・教育支援事業などを行っている当社では、オープンダイアログなどの対話的実践や、当事者・支援者・研究者が参加する共同研究・共同開発に取り組んできた。

当事者が参加する研究計画が実施される時、しばしば、研究者に当事者を紹介する仲介者が必要となる。当事者との関わりが多い当社は、企業や研究者から、当事者の紹介を依頼されることが少なくなる。そこで問題となるのが、“どの”当事者を紹介するかという点である。「当事者である」者が「当事者」として自己を表現し、当事者として当事者の問題に向き合うこと」を選択するとは限らず、仲介者が“適任の”当事者を選定することになる。この点について、慎重な検討が必要ではないだろうか。一方、当事者と専門家の境界線も、必ずしも明確なものではない。例えば、障害者雇用にも取り組んできた当社では、障害のある社員も多数在籍する。専門家（支援者）でもある彼らは「当事者」だろうか。「専門家」だろうか。

本講演では、当事者・支援者・研究者などが参加する対話的実践や共同研究・共同開発の取り組みについて紹介し、そこから見えてきた課題を手掛かりに、共創科学における「当事者」は誰が担うのか、当事者と研究者をどのようにつないでいくべきか、という問題について論じていく。